

## ～ まちづくり会社 『株式会社まちみとらボ』の挑戦 ～

平成28年11月1日、水戸市の中心市街地活性化を目的としたまちづくり会社「株式会社まちみとらボ」を、地域の仲間たちと共に設立した。この会社の設立経緯と活動内容についてお伝えすることで、皆さんの日常の活動の参考になれば、と思っている。

### 1. 中心市街地活性化協議会の設立

私たちのNPO 茨城の暮らしと景観を考える会は、平成15年の発足以来、専門部会を設けてチャレンジショップ（創業支援）プロジェクトを立ち上げるなど、お膝元である水戸市の中心市街地の活性化には重点を置いてきた。そのような実績により、平成20年9月には水戸市より「中心市街地整備推進機構」の指定を受け、同年10月には水戸商工会議所と共同で「水戸市中心市街地活性化協議会」を設立した。とは言え、設立前の準備会には私たちは殆ど参加していなかったため、具体的な組織づくりには関われなかった。そのためか設立当初は、地元の年長者たちが役員を占める非常に重たい組織で、しかも行政に対する批判は出るものの具体的な改善提案のない、言ってみれば「他人事」のような組織だった。

### 2. 転機

そのような組織を、時間を掛けて変えていこうと思ったのだが、なかなか変わらない。しかし平成23年3月の東日本大震災は大きなきっかけとなった。震災の影響や原発事故による風評被害は大きなものであったが、その中で、震災で使用不可能となった市民会館をまちなかに誘致しよう、と言う運動を始めた。この運動が実り、まちなかに新市民会館建設が決まったことで、水戸市も「中心市街地活性化基本計画」の策定を含め、中心市街地活性化に本腰を入れることとなった。

一方で私たちは、震災による危機感を背景に、協議会の組織を大きく改変した。まちなかから生きのいい若手を40人ほど一本釣りで集め、プロモーションとデザイン、産業創生の3部会を組織した。この3部会が、水戸市の策定する「中心市街地活性化基本計画」に関する協議の舞台となった。

平成26、27年度の2年間で実に80回以上の部会や協議を行い、その結果、全74事業のうち38事業が協議会からの提案となった基本計画がまとまった。そして水戸市はこの基本計画の、総理大臣認定を目指すことになった。

### 3. まちづくり会社設立の必要性

総理大臣認定にあたっては、基本計画の中で位置づけられている「まちづくり会社の設立」が大きな鍵を握ることになった。担当の内閣府にも、衰退した中心市街地の活性化には、行政だけの頑張りでは最早無理である、との認識があった。そのような訳で、計画の中で位置づけられているまちづくり会社の設立が、総理大臣認定の条件のようなものになった。

#### 4. まちづくり会社「まちみとラボ」の設立

この様な経緯で、昨年11月に新しいまちづくり会社「まちみとラボ」が発足した。株式会社なので地域の役に立つことで自走し、しっかり稼げる会社を目指しているが、設立の経緯もあって、最初の3年度に限り、水戸市と内閣府が「地方創生推進交付金」によるスタートアップ資金を用意してくれることとなった。

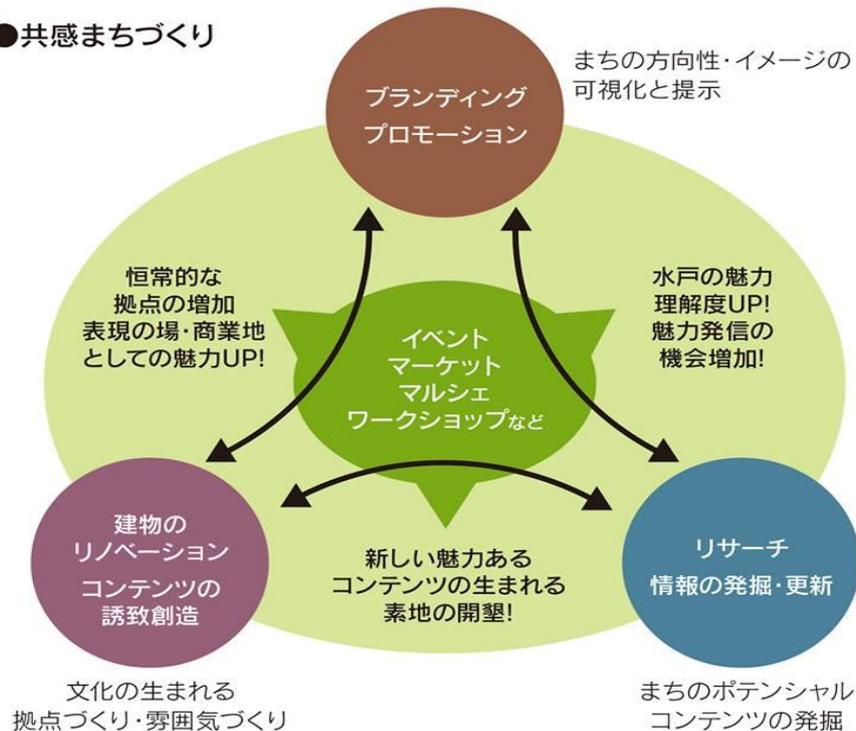
#### 5. まちみとラボの活動

まちみとラボの行う事業と今までのまちづくりとの違いは、「つくること」よりも「つかうこと」に重点を置いていること。まちづくり会社、と言うよりも「まちつかい」会社である。今あるモノを活用し、それを地域の人々の幸福に繋げる「仕掛け」「仕組みづくり」を推し進める。

さらに、リサーチやプロモーション、リノベーション、マーケットやワークショップなどの事業を、一つの組織が相互に関連付けて相乗効果を狙いながら総合的に進めることで、多くの人々の「共感」を呼び起こす流れを作ること。

本気で、しかも自力で地域を元気にしよう、という気持ちだが、逆に地方創生推進交付金を招き入れている。地域との関わりを強くし、地域の活性化に本気で取り組む姿勢があれば、行政を含めた地域社会は、その組織に対する支援を惜まない、と言うのが実感である。

#### ●共感まちづくり



### 株式会社まちみとラボ

〒310-0021 茨城県水戸市南町3丁目3-35

TEL&FAX:029(388)1580 <http://machi-mito-lab.com>